

『銀河鉄道の夜』で日本語比喩文を見る

苗 茨

日本語と中国語の比喩の比較を進めていくうちに、あることに気がついた。同じ物事について喩えようとするとき、話者が日本人であるか中国人であるかによって、喩体として用いられる物事は異なってくることである。例えば、プールや海水浴場に人が大勢いて、混雑していると、日本人は「芋を洗う」といって例えるのであろうし、中国人なら、「象煮餃子一样」（「水餃子を煮る鍋みたい」）という比喩を使うと思われる。もちろん、比喩の中で喩体として用いられる物事は、それぞれの国の人々にとって、日常生活の中で、もっとも身近なもので、比喩の話し手にしても、受け手にしても、すぐそのイメージが脳裏に浮かんでくるものであると思われる。

このたび、日中両国語の話者がそれぞれどういった物事を喩体にする傾向があるかという課題を踏まえて、日本の文学作品に出てくる比喩法ではどういったものが喩体に使われているかをテーマにして調べてみた。調査の対象は、宮沢賢治の童話『銀河鉄道の夜』である。方法は全文から比喩文を取り出し、ある特定の物事や人物（本体）を喩えるとき、どんなものが喩体として用いられるかを調べる。ただし、体言同士の喩えだけに注目するというルールを決めたので、本体か喩体が用言になっている文は省くことにした。

1 本体：銀河

(1) 喩体：川

ですからもしもこの天の川がほんたうに川だと考へるなら、(その一つ一つの小さな星はみんなその川のそこの砂や砂利の粒にもあたるわけです。)

(2) 喩体：巨きな乳の流れ

またこれを巨きな乳の流れと考へるなら、もっと天の川とよく似てゐます。

(3) 喩体：水

その天の川の水のなかから四方を見ると、ちょうど水が深いほど青く見えるやうに、天の川の底の深く遠いところほど星がたくさん集って見え、したがって白くぼんやり見えるのです。

(4) 喩体：帯、湯気

やはりそのまん中には上から下へかけて銀河がぼうとけむったやうな帯になって、その下の方ではかすかに爆発して湯気でもあげてゐるやうに見えるのでした。

(5) 喩体：金剛石、草の露

金剛石や草の露やあらゆる立派さをあつめたやうな、きらびやかな銀河の河床の上を氷は声もなくかたちなく流れ…

(6) 喩体：焰

見えない天の川の水もそのときはゆらゆらと青い焰のやうに波をあげるのでした。

(7) 喩体：柱

…見えない天の川の水がぎらっと光って、柱のやうに高くはねあがり、どおと烈しい音がしました。

(8) その柱のやうになった水が…

(9) 喩体：針

…見えない天の川の波も、ときどきちらちら針のやうに赤く光りました。

2 空

(10) 喩体：野原

見れば見るほど、そこに小さな林や牧場やらある野原のやうに考えられて仕方なかったのです。

3 空気

(11) 喩体：水

空気は澄みきって、まるで水のやうに通りや店の中を流れましたし…

4 町

(12) 喩体：人魚の都

ほんたうにそこらは人魚の都のやうに見えるのでした。

(13) 喩体：海の底のお宮

町の灯は、暗の中をまるで海の底のお宮のけしきのやうにともり…

(14) 喩体：星の集まり、けむり

またすぐ眼の下のまちまでが、やっぱりぼんやりしたたくさんの星の集りか一つの大きなけむりかのやうに見えるやうに思ひました。

(15) 喩体：お祭り

そこにお祭でもあるといふやうな気がするのです。

5 虫

(16) 喩体：烏瓜のあかり

草の中にはぴかぴか青びかりを出す小さな虫もゐて、ある葉は青くすかし出され、ジョバンニは、さっきみんなの持って行った烏瓜のあかりのやうだとも思ひました。

6 鳥

(17) 喩体：鉄砲丸

何かまっくらなものが、いくかたまりもいくかたまりも鉄砲丸のやうに川の向ふの方へ飛んで行くのでした。

7 鷺

(18) 喩体：北の十字架、浮彫

まっ白な、あのさっきの北の十字架のやうに光る鷺のからだは、十ばかり少しひらべたくなって、黒い脚をちぢめて、浮彫のやうにならんでゐたのです。

(19) 喩体：槍

頭の上の槍のやうな白い毛もちゃんとついてゐました。

(20) 喩体：蛍

すると鷺は、蛍のやうに、袋の中でしばらく、青くぺかぺか光ったり、消えたりしてゐましたが…

(21) 喩体：雪

がらんとした桔梗いろの空からさっき見たやうな鷺が、まるで雪の降るやうに、ぎゃあぎゃあ叫びながら、いっばいに舞ひおりて来ました。

(22) 喩体：雪、銅の汁

それは、見てゐると、足が砂へつくや否や、まるで雪の融けるやうに、縮まって扁べたくなって、間もなく溶鉱炉から出た銅の汁のやうに…

8 雁

(23) 喩体：あかり、鷺

すると黄と青じろとまだらになって、なにかのあかりのやうにひかる雁が…ちやうどさっきの鷺のやうに…

(24) 喩体：チョコレート

するとそれは、チョコレートでもできてゐるやうに、すっときれいはなれました。

9 花

(25) 喩体：夢

つりがねさうか野ぎくかの花が、そこらいちめん、夢の中からも薫りだしたといふやうに咲き、…

(26) 喩体：月長石

月長石でも刻まれたやうな、すばらしい紫のりんだうの花が咲いてゐました。

(27) 喩体：狐火

たくさんのりんだうの花が…やさしい狐火のやうに思はれました。

10 露

(28) 喩体：蠟

またまっ白な蠟のやうな露が太陽の面を擦めて行くやうに思はれました。

(29) 喩体：金剛石

…まるでひるの間にいっぱい日光を吸った金剛石のやうに露がいっぱいについて…

11 森

(30) 喩体：貝ぼたん

…その小さく小さくなっていまはもう一つの緑いろの貝ぼたんのやうに見える森の上に…

12 すすき

(31) 喩体：銀，貝殻

右手の崖には、いちめん銀や貝殻でこさへたやうなすすきの穂がゆれたのです。

13 雲

(32) 喩体：後光

その上には青白い雲がまるで環になって後光のやうにかかつてゐるのでした。

(33) 喩体：苹果の肉

あの苹果の肉のやうな青白い環の雲も、ゆるやかにゆるやかに繞ってゐるのが見えました。

14 星

(34) 喩体：砂，砂利の粒

その一つ一つの小さな星はみんなその川のそこの砂や砂利の粒にもあたるわけです。

(35) 喩体：脂油の球

つまりその星はみな、乳のなかにまるで細かにうかんでゐる脂油の球にもあたるのです。

(36) 喩体：蕈

そしてジョバンニは青い琴の星が…たうとう蕈のやうに長く伸びるのを見ました。

15 川

(37) 喩体：空

下流の方の川はば一ぱい銀河が巨しく写って、まるで水のないそのままのそらのやうに見えました。

16 波

(38) 喩体：稻妻

左手の渚には、波がやさしい稻妻のやうに燃えて寄せ、…

17 島

(39) 喩体：絵

白鳥の島は…絵のやうになってしまひ…

18 岩

(40) 喩体：運動場

白い岩が、まるで運動場のやうに平らに川に沿って出てゐるのでした。

19 化石

(41) 喩体：くるみの実

カムパネルラが…黒い細長いさきの光ったくるみの実のやうなものをひろひました。

20 水

(42) 喩体：虹

そのきれいな水は…虹のやうにぎらっと光ったりしながら…

21 火

(43) 喩体：けむり

あすこの岸のずうっと向ふにまるでけむりのやうな小さな青い火が見え

る。

(44) 喩体：ルビー，リチウム

ルビーよりも赤くすきとほり，リチウムよりもうつくしく酔ったやうになって，その火は燃えてゐるでした。

22 野原

(45) 喩体：幻燈

向ふの方の窓を見ると，野原はまるで幻燈のやうでした。

23 三角標

(46) 喩体：ちり

ぼくのおっかさんは，あの遠い一つのちりのやうに見える橙いろの三角標のあたりにいらっしゃって，いまぼくのことを考へてゐるんだった。

(47) 喩体：霧，狼煙

三角標…測量旗…ぼおっと青白い霧のやう，狼煙のやうなものが，かはるがはるきれいな桔梗いろのそらにうちあげられるのでした。

(48) 喩体：さそりの腕，尾，かぎ

…三つの三角標が，ちょうどさそりの腕のやうに，こっちに五つの三角標がさそりの尾やかぎのやうにならんでゐるのを見ました。

24 電信柱

(49) 喩体：腕

…電信ばしらが，丁度両方から腕を組んだやうに赤い腕木をつらねて立ってゐました。

25 十字架

(50) 喩体：北極の雲

その島の平らないただきに，立派な眼もさめるやうな，白い十字架があつて，それはもう，凍った北極の雲で铸たといったらいいか，すきっとした金いろの円光をいただいて，…

(51) 喩体：木

…十字架がまるで一本の木といふ風に川の中から立ってかがやき…

26 ネオン

(52) 喩体：海，星

いろいろな宝石が海のやうな色をした厚い硝子の盤に載って，星のやうにゆっくり循ったり，また…

27 広場

(53) 喩体：水晶細工

二人は，駐車場の前の，水晶細工のやうに見える銀杏の木に囲まれた，小さな広場に出ました。

28 あかり

(54) 喩体：硫黄のほのお

それから硫黄のほのほのやうなくらいぼんやりした転てつ機の前のあかりが窓の下を通り…

29 豆電灯

(55) 喩体：蛍

その中にはたくさんのたくさんの豆電灯がまるで千の蛍でも集ったやうについてゐました。

30 天気輪の柱

(56) 喩体：蛍

そしてジョバンニはすぐうしろの天気輪の柱がいつかぼんやりした三角標の形になって，しばらく蛍のやうに，ぺかぺか消えたりともったりしてゐるのを見ました。

(57) 喩体：鋼の板

いま新しく灼いたばかりの青い鋼の板のやうな，そらの野原に，まっすぐにしきと立ったのです。

31 影

(58) 喩体：ばけもの

いままでばけもののやうに，長くぼんやり，うしろへ引いてゐたジョバンニの影ぼふしは…

(59) 喩体：柱の影，車輪の輻

二人の影は，ちょうど四方に窓のある室の中の，二本の柱の影のやうに，また二つの車輪の輻のやうに幾本も四方へ出るのです。

32 地図

(60) 喩体：円い板

そして，カムパネルラは，円い板のやうになった地図を…しきりにぐるぐるまはして見てみました。

(61) 喩体：夜

夜のやうにまっ黒な盤の上に…

33 測候所

(62) 喩体：花火

窓の外，まるで花火でいっぱいのような，あまの川のまん中に，黒い大きな建物が四棟ばかり立って，その一つの平屋根の上に，眼もさめるやうな青宝玉と黄玉の大きな二つのすきとほった球が…

34 双子の星のお宮

(63) 喩体：水晶

右手の低い丘の上に小さな水晶でもこさへたやうな二つのお宮がならんで立ってゐました。

35 のろし

(64) 喩体：ひるま

…のろしが，まるでひるまのやうにうちあげられ…

36 真空

(65) 喩体：川の水

そんなら何がその川の水にあたるかと云ひますと，それは真空といふ光をある速さで伝えるもので，太陽や地球もやっぱりそのなかに浮かんでゐるのです。

37 明るさ

(66) 喩体：化石させた螢烏賊の火，ばら撒いた金剛石

いきなり眼の前が、ぱっと明るくなって、まるで億万の螢鳥賊の火を一ぺんに化石させて、そら中に沈めたといふ工合、またダイヤモンド会社で、ねだんがやすくならないために、わざと獲れないふりをして、かくして置いた金剛石を誰かがいきなりひっくりかへして、ばら撒いたといふ風に、眼の前がさあっと明るくなって、…

38 切符

(67) 喩体：唐草

ところがそれはいちめん黒い唐草のやうな模様の中に、をかしな十ばかりの字を印刷したもので、だまって見てみると何だかその中へ吸い込まれてしまふやうな気がするのです。

39 木

(68) 喩体：クリスマスツリー

ああそこにはクリスマストリーのやうにまっ青な唐檜かもみの木がたつて、…

40 とうもろこし

(69) 喩体：真珠

…もう美しい緑いろの大きな苞が赤い毛を吐いて真珠のやうな実もちらっとみえたのです。

(70) 喩体：列

…もういまは列のやうに崖と線路との間にならび、…

41 りんごの皮

(71) 喩体：コルク抜き

…きれいな皮も、くるくるコルク抜きのやうな形になって床は落ちる…

42 いるか

(72) 喩体：弓

…あの見えない天の川の水の上に飛び出してちょっと弓のやうなかたちに進んで、また水の中にかくれたやうでした。

(73) 喩体：魚

みんな魚のやうに川上へのぼるらしいのです。

(74) 喩体：くじら

「くじらと同じやうなけだものです。」

43 犬のしっぽ

(75) 喩体：箒

ザウエルといふ犬があるよ。しっぽがまるで箒のやうだ。

44 活字

(76) 喩体：粟粒

小さなピンセットでまるで粟粒ぐらゐの活字を次から次と拾ひはじめました。

45 鋼玉

(77) 喩体：霧

稜から霧のやうな青白い光を出す鋼玉やらでした。

46 笛

(78) 喩体：硝子

すきとほった硝子のやうな笛が鳴って…

47 音

(79) 喩体：硝子の笛

ずうっと前の方で、硝子の笛のやうなものが鳴りました。

(80) 喩体：水

ころんころんと水の湧くやうな音が聞こえて来るのでした。

(81) 喩体：雨

すると空中にざあっと雨のやうな音がして、(何かまっくらなものが、いくかたまりもいくかたまりも鉄砲丸のやうに川の向ふの方へ飛んで行くのでした。)

(82) 喩体：糸

そしてまったくその振子の音のたえまを、遠くの遠くの野原のはてからかすかなかすかな旋律が糸のやうに流れて来るのでした。

(83) 喩体：草花の匂い

さまさまの樂の音や草花の匂いのやうなもの、口笛や人々のざわざわ云ふ声やらを聞きました。

48 声

(84) 喩体：セロ

すると、ちやうど、それに返事をするやうに、どこか遠くの遠くのもやのもやのなかから、セロのやうなごうごうした声がきこえて来ました。

(85) あのやさしいセロのやうな声が、ジョバンニのうしろから聞えました。

(86) あのセロのやうな声がしたと思ふと…

49 ジョバンニ

(87) 喩体：風

そしてほんたうに、風のやうに走れたのです。

(88) 喩体：さそり

僕はもう、あのさそりのやうに、ほんたうにみんなの幸のためならば僕のからだなんか百ぺん灼いてもかまはない。

(89) 喩体：鉄砲丸

ジョバンニはまるで鉄砲丸のやうに立ちあがりました。

(90) 喩体：夢

…また夢のやうに足をのばしてゐました。

(91) 喩体：ばね

ジョバンニはばねのやうにはね起きました。

50 カムパネルラ

(92) 喩体：苹果のあかし

カムパネルラの頬は、まるで熟した苹果のあかしのやうにうつくしくかがやいて見えました。

(93) 喩体：夢

夢のやうに云ってゐるのです。

(94) 喩体：喧嘩

カムパネルラがいきなり、喧嘩のやうにたづねましたので…

51 鳥捕り

(95) 喩体：鉄砲弾にあたった兵隊

鳥捕りは…急に両手をあげて、兵隊が鉄砲弾にあたって、死ぬときのやうな形をしました。

52 青年

(96) 喩体：けやきの木

…青年が一ぱい風に吹かれてゐるけやきの木のやうな姿勢で…

53 男の子

(97) 喩体：りんご

男の子はまるで絹で包んだ苹果のやうな顔いろをして、…

54 お母さん

(98) 喩体：狂気

お母さんが狂気のやうにキスを送り…とてももう腸もちぎれるやうでした。

55 赤旗を振る人

(99) 喩体：オーケストラの指揮者

…俄かに赤旗をおろしてうしろにかくすやうにし、青い旗を高く高くあげてまるでオーケストラの指揮者のやうに烈しく振りました。

(100) 喩体：狂気

そのとき…男は俄かに赤い旗をあげて狂気のやうにふりうごかしました。

56 ザネリ

(101) 喩体：鼠

走るときはまるで鼠のやうなくせに…

以上、比喻文 101 文を集めた。その中、本体（喩えられる物事）として扱われたものは 56、喩体に使われたものは 95 あった。うち、二回以上喩体に使われたのは次の 14 個である。

鉄砲丸 (2), けむり (2), 雪 (2), 星 (2), 柱 (2), 霧 (2), 狂気 (2), 水晶 (2), 金剛石 (3), 蛍 (3), 夢 (3), りんご (3), セロ (3), 水 (4)

これらの中には、自然界のものはけむり、雪、星、霧、水晶、金剛石、蛍、りんご、水と、9つある。人工的に作られたものは、鉄砲丸、柱、セロ、そして、夢もしいて、この枠に入れるとしたら、4つになる。そして、人を表すの言葉は、狂気だけだった。

ここで、もう一度これらの喩体、それから、それぞれ喩えられた本体を並べてみよう。

(喩体)	けむり	(本体)	町、火
	雪		鷺
	星		町、ネオン
	霧		三角標、鋼玉
	水晶		広場、双子の星のお宮
	金剛石		銀河、露、明るさ
	蛍		鷺、豆電灯、天気輪の柱
	りんご		雲、カムパネルラの顔、男の子の顔
	水		銀河、空気、音、真空
	鉄砲丸		鳥、ジョバンニ
	柱		銀河
	セロ		声
	夢		花、ジョバンニ、カムパネルラ
	狂気		お母さん、赤旗を振る人

抽象的なものは具体的のものによって喩えられるし、そして、声を匂いに喩え、違った感覚器官で感知する感覚の転換によるちょっと特別な比喩法も見られる。

もともと、童話は子供に向けて書いたものである。だからこそ、比喩が多用されているのは当然のことであろう。今回、比喩文についての調べは、童話を対象にしたのも、その理由もここにあると言えよう。むろん、中には、

童話での比喻の特別な扱い方もあれば、作者として、比喻表現の使用上の個人的傾向も見られる。一方、日本の人々に好かれてきた名作として、その中から、日本語比喻表現の本体、喩体に関する普遍特性を見出すこともできると思われるし、中国語比喻との比較研究にも役に立てたいと思う。 2002/02/22

参考文献

『日本文学全集 北原白秋・高村光太郎・宮澤賢治集』 筑摩書房 1970年11月